

賛助会員各位

平成 27 年 12 月 17 日
(公社) 日本地すべり学会 学会誌編集委員会
編集委員長 渡部 直喜

賛助会員による「わが社の技術」紹介記事募集

このたび、日本地すべり学会誌では、賛助会員による「わが社の技術」紹介ページを新設します。賛助会員は、記事を学会誌に投稿していただくことで、会員への広報をしていただくことが可能です。内容は以下の通りですので、奮って投稿して下さりますようお願いいたします。

1. 内容

- ・ 貴社の取組、又は新技術や新製品に関する記事です。**単なる宣伝ではなく、特長、有用性、適用事例などなど、会員への技術情報の紹介という趣旨**で執筆を御願いたします。
- ・ 会社概要（売上、社員数などなど）の詳しい記述は不要です。技術にフォーカスして記述して下さい。
- ・ 記述形式について特に制約はありません。2 段組で、奥山ボーリング株式会社様の例を参考に自由に記述して下さい。
- ・ 1 ページ/1 社で、毎号 2 社程度掲載
- ・ 掲載は原稿到着順です。
- ・ **掲載料は無料です。**（モノクロの場合。カラーの場合は、10,000 円の掲載料が掛かります。）
- ・ 掲載場所は、「シリーズ」の後で、「学会活動報告」の前

2. 送付先

(1) Word 原稿を、以下のアドレスにお送り下さい。

post@landslide-soc.org

(2) メールタイトルを次のように記載して下さい。

わが社の技術（貴社名）

以上



1. はじめに

当社は1946年に創業し、1960年代頃から地すべり防止に関する事業に携わるようになりました。2016年には創業70周年を迎えます。ここでは、地すべり調査および防災に関する当社の最近の技術的な取り組みについて、その一部をご紹介します（図-1）。

2. 地下水排除工のための簡易削孔システム

地下水排除工の代表的工法である横ボーリング工には、機材の運搬が大掛かりで施工期間が長くなる等の課題があります。当社の簡易削孔システム（実用新案登録：第3186011号）は、道路盛土や宅地盛土を主な対象に、30m程度までの簡易な集水ボーリングを削孔できる方法として考案された新工法です。小型で軽量の器具を組み合わせた装置のため人力による運搬が可能であり、仮設も小規模で済むため、工期の短縮や施工費を安価に抑えることができます。

3. 酸素溶解式地下水追跡と加熱式地下水検層による地下水調査

食塩をトレーサとする従来の地下水追跡や地下水検層は、塩分濃度の高い地下水を有する地すべり地等では使用することができません。当社では山形県の地すべり地などにおいて、土木研究所で開発された酸素溶解式地下水追跡及び加熱式地下水検層による地下水調査を行って、これらの有用性などを検証しています（鈴木・大村，2015）。

4. 地中伸縮計の観測におけるノイズ抑制

地中伸縮計が地すべり変動以外の変位（ノイズ）を記録する原因の一つに、ボーリング孔周辺における地盤変形（沈下等）の影響が指摘されます。このようなノイズを除去するために、ボーリング保孔管の頭部に測定装置を直接固定する測定台（実用新案登録：第3188790号）を考案しました。これによる計測結果から、明らかなノイズ発生防止効果を確認することができました（安藤ほか，2015）。

5. 地震地すべりの危険度評価

2004年の新潟県中越地震を契機に、地震による地すべりとその対応の必要性が認識されるようになりました。当社では中越地震以前から地震地すべりに関する研究を進めており、地震地すべりの安定性や危険度評価手法に関する研究成果を発表しています（例えば、林ほか，2015など）。

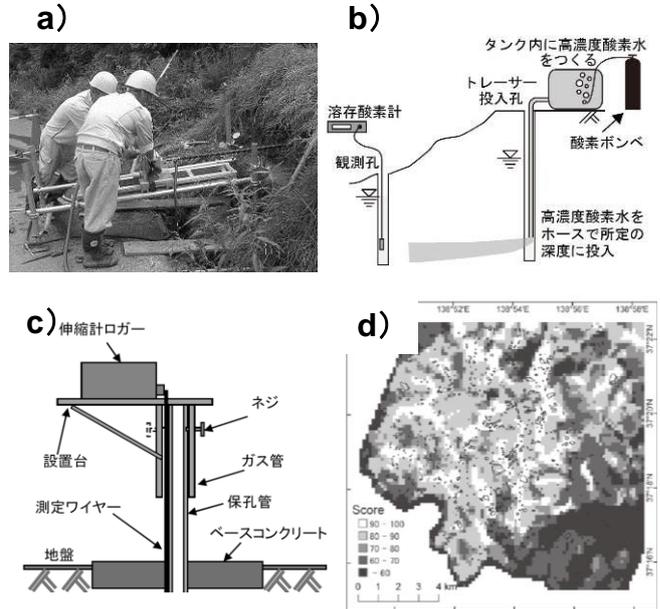


図-1 地すべりに関する最近の技術的な取り組み
a)簡易削孔システム，b)高濃度酸素水を用いた地下水追跡調査，c)保孔管頭部へ直接設置する地中伸縮計，d)地震地すべりの危険度評価の例

6. おわりに

当社ではこれからも社会のニーズに応えた様々な技術開発を実施していきます。このほかの研究・開発についても当社ホームページ

(http://www.okuyama.co.jp/r_d.html)でご紹介しています。ぜひご覧ください。

参考文献

安藤翔平・森屋洋・木村喜和（2015）：保孔管頭部への地中伸縮計設置によるノイズ発生防止効果，全地連「技術フォーラム2015」名古屋，C2現場技術，No.72。
林一成・濱崎英作・八木浩司・檜垣大助（2015）：バッファ移動解析と過誤確率分析法を用いた地震地すべりの危険度評価モデルの構築，日本地すべり学会誌，Vol.52，No.2，pp.60-66。
鈴木真悟・大村泰（2015）：酸素溶解式地下水追跡及び加熱式地下水検層による地下水調査事例，「斜面防災対策技術フォーラム'15」 in 高松講演集，pp.17-20。

お問い合わせ先：
奥山ボーリング株式会社
〒013-0046 秋田県横手市神明町 10-39
TEL：0182-32-3475 / Fax：0182-33-1447
Eメールでのお問い合わせはこちらから
<http://www.okuyama.co.jp/contact.html>